

『大原社会問題研究所雑誌』 2015 年度総目次

- (1) 2008～2012年度の総目次については2012年4月号（No.654）、2013年度以降の総目次については各年4月号（2013年度No.666、2014年度No.678）を参照されたい。
- (2) 『資料室報』第1号～『大原社会問題研究所雑誌』2008年10・11月号（No.599・600）までの総目次については、2008年10・11月号（No.599・600）を参照されたい。
- (3) なお、大原社会問題研究所ウェブサイト（<http://oisr-org.ws.hosei.ac.jp/oz/>）でも、バックナンバー総目次を掲載している。さらに、1997年4月号以降については、雑誌本体のオンライン・ジャーナル化、ウェブ上での公開を行っている。

2015年4月号 No.678

【特集】第27回国際労働問題シンポジウム ディーセントな雇用創出と雇用制度改革	
特集にあたって	鈴木 玲
2014年のILO総会について	上岡恵子
第6議題の議論について	上村俊一
政府の立場から	堀場絵里香
労働者の立場から	向澤 茂
使用者の立場から	松井博志
労働法制の展開と課題——労働法の変化と最近の労働政策	野川 忍
パネルディスカッション	
参考資料	
■証言：戦後社会党・総評史	
総評運動と社会党と私——富塚三夫氏に聞く（上）	
■書評と紹介	
中島醸著『アメリカ国家像の再構成 ——ニューディール・リベラル派とロバート・ワグナーの国家構想』	佐藤千登勢
土屋敦著『はじき出された子どもたち ——社会的養護児童と「家庭」概念の歴史社会学』	沢山美果子
エリック・プライシュ著／明戸隆浩他訳 『ヘイトスピーチ——表現の自由はどこまで認められるか』	榎 透
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
『大原社会問題研究所雑誌』2014年度総目次	
月例研究会 朝鮮海峡を渡った在朝日本人資本家の都市統合問題と葛藤について ——対馬と釜山を中心に	金慶南
所報	2014年12月

2015年5月号 No.679

【特集】境界地域における「国民統合過程」と人々の意識——日本とアジアを中心に	
特集にあたって	金慶南
境界地域におけるローカリティ交流空間の形成と変形——対馬と釜山を中心に	金慶南
戦後日本における台湾人華僑の苦悩 ——国籍問題とそのアイデンティティの変容を中心として	何義麟
近代日本の「文化統合」と周辺地域——「奄美」を事例にして	高江洲昌哉
メコン地域における越境的な開発・環境問題と地域アイデンティティ ——越境的な市民ネットワークの形成とその意義についての考察	渋谷淳一

コメント1——境界線とナショナリズムの視点から	羽場久美子
コメント2——在日朝鮮人史の視点から	宮本正明
■証言：戦後社会党・総評史	
総評運動と社会党と私——富塚三夫氏に聞く（下）	
■書評と紹介	
大森真紀著『世紀転換期の女性労働——1990年代～2000年代』	小倉祥子
早川征一郎・松尾孝一著『国・地方自治体の非正規職員』	下井康史
佐藤幹夫著『ルポ 高齢者ケア——都市の戦略，地方の再生』	橋本美由紀
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
所報	2015年1月

2015年6月号 No.680

【特集】フェミニズム運動と反貧困運動	
特集にあたって	藤原千沙
社会運動と政治	湯浅 誠
「子どもの貧困」とフェミニズム	湯澤直美
女性学・女性問題における貧困・階層問題——フェミニズムと労働をめぐって	伊田久美子
コメント 社会運動とジェンダー	申琪榮
コメント フェミニズムと子育て支援	大森順子
ディスカッション	
■研究ノート	
高齢者の居場所作り事業に関する検討——網走市高齢者ふれあいの家をもとに	白瀬由美香・大塚理加・ 大津唯・泉田信行

■証言：戦後社会党・総評史	
日本社会党青年部再考『NO!9条改憲・人権破壊』（明石書店，2007年）をもとに——高見圭司氏に聞く（上）	
■書評と紹介	
法政大学大原社会問題研究所叢書 榎一江・小野塚知二編著『労務管理の生成と終焉』	山下 充
翁貞瓊・禹宗杭著『中国民营企业の雇用関係と企業間関係』	丸川知雄
Jeffrey C. Alexander and Bernadette N. Jaworsky, <i>OBAMA POWER</i>	兼子 論
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 1930年代イギリスにおける家族調査の一齣——Beveridge and Others, <i>Changes in Family Life, 1932</i> . を読んで	原 伸子
所報	2015年2月

2015年7月号 No.681

【特集】若者労働問題の新局面(1)	
特集にあたって	上西充子
「ブラック企業問題」の沿革と展望——概念の定義及び射程を中心に	今野晴貴
いわゆる「ブラック企業」と採用・内定・入社をめぐる問題——法的問題点を中心に	嶋崎 量
ブラックバイト問題について	大内裕和
■特別寄稿	
近代経済成長は労働にとって何だったのか？——ある応用経済学者の研究遍歴	尾高煌之助
■資料紹介	
大原社研所蔵軍法会議記録と検察庁保管軍法会議記録	廣畑研二

■書評と紹介	
伍賀借子著 『敗戦直後を切り拓いた働く女性たち——「勤労婦人聯盟」と「きらく会」の絆』	谷合佳代子
小野達也著 MINERVA 社会福祉叢書 43 『対話的行為を基礎とした地域福祉の実践——「主体—主体」関係をきずく』	田村哲樹
アーリー・ラッセル・ホックシールド著／坂口緑・中野聡子・両角道代訳 『タイム・バインド《時間の板挟み状態》働く母親のワークライフバランス——仕事・家庭・子どもをめぐる真実』	原 伸子
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 戦後労働運動の「主流的」な説明と、主流的説明で見落とされた側面	鈴木 玲
所報	2015年3月
2015年8月号 No.682	
【特集】若者労働問題の新局面(2)	
NOと言えない若者への支援と労働法教育の取り組み	川村遼平
若年労働問題への教育現場の対応——キャリア教育を超えて	児美川孝一郎
若年労働の変容と住まいの貧困	稲葉 剛
「ブラック企業」の普遍性と多面性——社会科学的分析の試み	鈴木 玲
■論文	
ドイツにおける商学士の雇用の開始——化学企業の事例研究	石塚史樹
■証言：戦後社会党・総評史	
日本社会党青年部再考 『NO!9条改憲・人権破壊』（明石書店、2007年）をもとに——高見圭司氏に聞く（下）	
■書評と紹介	
中川スミ著／青柳和身・森岡孝二編『資本主義と女性労働』	石田好江
禹宗杭・連合総研編『現場力の再構築へ——発言と効率の視点から』	山垣真浩
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 1931年のプロレタリア文化運動における運動方針転換問題の再検討	立本紘之
所報	2015年4月
2015年9・10月号 No.683・684	
【特集】新自由主義とジェンダー平等——政治学の視点から	
特集にあたって	原 伸子
マルクスの隠れ家の背後へ——資本主義の概念の拡張のために	ナンシー・フレイザー ／竹田杏子訳
新自由主義の時代におけるフェミニズム、市民社会	衛藤幹子
■証言：戦後社会党・総評史	
社会党生活 32年 社会民主主義とマルクス主義の狭間で——横山泰治氏に聞く	
太田薫氏と労働運動を語る——塚田義彦氏に聞く	
■書評と紹介	
長谷川裕編著『格差社会における家族の生活・子育て・教育と新たな困難——低所得者集住地域の実態調査から』	吉中季子
山岸敬和著『アメリカ医療制度の政治史——20世紀の経験とオバマケア』	大原利夫
塚原久美著『中絶技術とリプロダクティヴ・ライツ——フェミニスト倫理の視点から』	山根純佳
佐藤成基著『国家の社会学』	金子良事

毛塚勝利編『事業再構築における労働法の役割』	米津孝司
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
法政大学大原社会問題研究所 2014 年度の歩み	
月例研究会 現代市民社会をめぐる問題構制の批判的考察	兼子 諭
所報	2015 年 5・6 月

2015 年 11 月号 No.685

【特集】社会保障・税一体改革後の医療・年金・子育て支援政策	
特集にあたって	中澤秀一・畠中亨
「社会保障・税一体改革」後の医療政策	松田 亮三
2014 年公的年金財政検証と低所得・低年金者対策	畠中 亨
人口政策・保育労働力政策としての子育て支援	垣内 国光
■証言：戦後社会党・総評史	
総評解散後の労働組合と社会党——橋村良夫氏に聞く（上）	
■書評と紹介	
宮本光晴著『日本の企業統治と雇用制度のゆくえ——ハイブリッド組織の可能性』	佐藤 厚
筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み』	佐口和郎
黒川伊織著『帝国に抗する社会運動——第一次日本共産党の思想と運動』	立本紘之
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 日本における大学アーカイブズ史の一考察	清水善仁
所報	2015 年 7 月

2015 年 12 月号 No.686

【特集】朝鮮人強制連行研究の成果と課題——「戦後 70 年」の現在から考える(1)	
特集にあたって	愼蒼宇
朝鮮人強制動員研究の現況と課題	樋口雄一
朝鮮人軍人軍属の強制動員数——37 万人以上の動員と消された氏名不明の 13 万人	竹内康人
韓国における「朝鮮人強制動員」問題の現状と課題	韓惠仁・南相九
■論文	
1920 年代の移民問題をめぐる日本国際連盟協会と国際労働事務局——国際連盟協会連合会における議論の分析	寺田 晋
■証言：戦後社会党・総評史	
総評解散後の労働組合と社会党——橋村良夫氏に聞く（下）	
■書評と紹介	
谷口明丈編『現場主義の国際比較——英独米日におけるエンジニアの形成』	沢井 実
友澤悠季著『「問い」としての公害——環境社会学者・飯島伸子の思索』	平林祐子
Hwa-Jen Liu, <i>Leverage of the Weak: Labor and Environmental Movements in Taiwan and South Korea</i>	鈴木 玲
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 メコン地域における人の移動——国家と地域統合の視点から	渋谷淳一
所報	2015 年 8 月

2016 年 1 月号 No.687

【特集】朝鮮人強制連行研究の成果と課題——「戦後 70 年」の現在から考える(2)	
長崎と朝鮮人強制連行——調査研究の成果と課題	高實康稔

北海道における朝鮮人強制連行・強制労働と企業「慰安所」	金優綺
朝鮮人強制連行研究における「労働力不足説」「労働力充足説」の検討 ——1939年～1942年の炭鉱労働者としての配置を中心に	鄭祐宗
■調査報告	
マニラのホームレス——仕事・貧困・家族	青木秀男
■書評と紹介	
立花雄一著『隠蔽された女米騒動の真相——警察資料・現地検証から見る』	石坂悦男
宮島喬著『外国人の子どもの教育——就学の現状と教育を受ける権利』	池上重弘
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 丸岡秀子が提起したこと——「いのち」・「子ども」・「労働」をめぐる 所報	松尾純子 2015年9月

2016年2月号 No.688

【特集】職業能力の間主観的構造(1)——訓練、資格、報酬	
特集にあたって	小野塚知二・榎 一江
戦後における資格給の形成——八幡製鉄の事例を中心に	禹宗杭
フランスにおける教育・資格・職業能力の連関——戦間期から高度成長期へ	松田紀子
三菱電機における職能資格制度の形成	鈴木 誠
コメント——フランス職業教育研究の立場から	清水克洋
■論文	
プロフェッショナル労働市場の分析枠組みの検討——内部労働市場論から	西村 健
■書評と紹介	
園部雅久著『再魔術化する都市の社会学——空間概念・公共性・消費主義』	橋本健二
中澤高志著『労働の経済地理学』	久木元美琴
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 ハワイ大学マノア校での一年間を振り返って——2014年度在外研究報告 所報	榎 一江 2015年10月

2016年3月号 No.689

【特集】職業能力の間主観的構造(2)——入職、選抜、処遇	
工業高校卒業者のキャリアと職務能力認識	市原 博
アメリカ企業におけるホワイトカラーのサラリー制度 ——職務と報酬の関係についての歴史的考察	関口定一
産業社会成立期イギリスにおける能力差をめぐる言説と入職・選抜・処遇	小野塚知二
コメント——能力観についての諸研究を概観する	木下 順
■証言：戦後社会党・総評史	
回想の総評運動1960～70年代を中心に——谷正水氏に聞く	
■書評と紹介	
佐藤千登勢著『アメリカの福祉改革とジェンダー——「福祉から就労へ」は成功したのか？』	小林勇人
関口すみ子著『菅野スガ再考——婦人矯風会から大逆事件へ』	梅森直之
ジェームズ・C.スコット著／佐藤仁監訳『ゾミア——脱国家の世界史』	渋谷淳一
社会・労働関係文献月録	法政大学大原社会問題研究所
月例研究会 昭和立憲制とその周辺 所報	米山忠寛 2015年11月